

## 平成 28 年度岡山大学学位記等授与式

### 式 辞

本日ここに、ご来賓の方々、並びに多数のご家族の皆様のご臨席を賜りまして、平成 28 年度の岡山大学学位記等授与式を執り行いますこと、岡山大学にとりまして大きな栄誉であり、大きな喜びでもあります。

卒業生、修了生の皆さんが、岡山大学の美しいキャンパスのもとで、勉学と研究に打ち込み、世界から人々が集まる国際的な美しい学都の形成に一翼を担い、本日、はれて学位記を取得されましたこと、岡山大学学長として、深く敬意とお祝いを申し上げます。

さらに、本日、この学位授与式にご参列いただきましたご家族の皆様、また、これまで、さまざまな形でご支援をいただきました関係者の皆様方に対しましても、心より感謝とお喜びを申し上げます。

本年度の岡山大学の学部等卒業生は、2,243 名、大学院修了生は 917 名、総勢 3,260 名にのぼります。そして、世界 17 カ国から、100 名の海外留学生が今回、卒業・修了を迎えられました。岡山大学から 3000 名を超える卒業生を、将来において日本を支え、世界をリードする優れた人材として、自信を持って社会に送り出すことは、学長としてこの上ない大きな誇りであります。

今日から皆さんは、岡山大学 Alumni・全学同窓会、また岡山大学国際同窓会のメンバーでもあります。私自身も、40 数年前に皆さんと同じく、岡山大学を卒業した一人であり、約 150 年前、1870 年創設の岡山藩医学館に始まり、1900 年に創立された第六高等学校、100 年の歴史をもつ大原奨農会研究所などの、先人たちが築きあげた、かけがえのない優れた伝統を持つこの岡山大学を卒業したことに、私は、大きな誇りを持っております。

また、これまでに 4,000 人を超す海外留学生の皆さんが、それぞれの国において素晴らしい活躍をされ、母校に対する強い思い入れをもって世界各地に 50 か所の国際同窓会支部の設立をしていただき、岡山大学のための活動を行っていただいております。

岡山大学 Alumni、国際同窓会の仲間に加わること、こころから歓迎をし、今一度、母校の素晴らしい歴史と伝統を振り返り、自らが岡山大学を卒業したことに、誇りを持っていただきたいと願っております。

私ことになります。私もこの 3 月をもって 6 年間の学長としての任期を

終え、皆さんと同じように、この岡山大学を卒業いたします。今日は、皆さんと全く同じ気持ちでここに立っております。私は、40 数年前にこの岡山大学を卒業し、その後のほとんどの期間を岡山大学で過ごし、6 年前に岡山大学第 13 代の学長として、新たな気持ちでこのキャンパスでの仕事に入りました。皆さんとは、この間、厳しい社会構造の変化の中、厳しい大学改革の中、志を同じくする大学人として岡山大学の理念である「高度な知の創成と的確な知の継承」を果たしてきた、いわば同志であります。

6 年前に私が学長に就任する直前の 2011 年 3 月 11 日には、東北大震災が発生し、それに伴う巨大な津波によって 2 万人を超える命が奪われました。さらには福島原子力発電所がメルトダウン崩壊し、日本は近代まれに見るダメージを負った年でもありました。6 年たった現在においても、その復興はままならず、多くの方が避難生活を未だ余儀なくされており、原発事故に対して日本は、これから先、何十年もにわたり、大きな代償を払い続けることとなります。

さらに昨年 4 月 14 日、その後の 16 日には、余震の後に本震が来るという未聞の熊本地震に見舞われ、150 名を越す住民の命が奪われました。科学者たちは「想像を超えた現象」という言葉を使いましたが、世の中に知をもたらすべく私たち科学者は、まだまだ自然の前には無力であり、さらなる知の創造と継承が必要であることを物語っています。

このように、私達のスタートは、大変厳しいものでありましたが、その後も、また 6 年たった現在も、またこれから将来においても、日本の少子高齢化を伴う人口減少、そして大学のクライアントである 18 歳人口の減少がもたらす社会構造の変化は、日本屈指の総合大学と自負するこの岡山大学でさえ、本当に存在が必要なのかと社会から問われている現状であります。

世界に目を向けても、歴史が 100 年前に戻ったかのように、国境なき宗教紛争、民族紛争が無秩序に世界中で発生し、テロリズムから逃れることのできる国はどこにも存在しないし、我が国の周囲にも危機的な状況が存在しています。つい最近まで、誰もが疑いもなく世界はグローバル化する必要があると叫ばれていたと思えば、近年は、他者を思いはするより我が身が First という保護主義が台頭し、これからの国際社会の見通しは困難な状況であります。

このような混沌とした社会環境の中で皆さんと共にした大学の数年間は、社会から厳しく改革を求められた時代であったし、私たちは、その期待に的確に答え、大きな変化をなしとげた担い手であったと思います。もし、未来において、しかるべき人が岡山大学を振りかえって見たとき、この時代はまさしく、

岡山大学の成功への転換点であったと認めてくれるものと、私は信じています。

3年前には、厳しい大学間競争の中、スーパーグローバル大学に認定され、PRIME Program 「世界で活躍できるグローバル実践人」を輩出するべく、グローバル教育、実践知教育が開始されました。このことは、SGUの選択は岡山大学の大きな分水嶺であったと今、私は感じております。

皆さんは、外交的であろうと内向的であろうと、好むと好まざるとも、英語が得意であろうと、なかろうと、グローバルな力を身に着け、実践力を持たなければ、これからの社会では活躍できないという事であります。

皆さんも知ってのとおり、この先10年以内には、現在存在する職種の半分は無くなり、AIとロボットに取って変わり、皆さんの半数以上は10年後、日本ではなく海外で仕事についているか、日本に居たとしても仕事のパートナーは日本人ではないという時代になっております。待ったすることなく自らの教養を磨き、常に世界と人びとと共同して連帯しあえる実践知を身に付けなくてはなりません。そのためのPRIME Programであります。

そして、皆さんには、60分授業、4学期制を全国で初めて全学で導入するという、大学教育の大転換に遭遇していただきました。全ての教職員、学生の皆さんが、今まで長きにわたって行ってきた大学での高等教育をすべて根本から見直して、新たな教育体制を全学で考えて、学びの強化を実施していただきました。皆さんには、相当な負担であったと思いますが、一見理不尽に思えたこの改革が、将来、皆さんにとって良かったと思える時が必ず来ると信じています。

さらには、私達の恵まれたキャンパスも大きな変貌をとげ、大学と市民との垣根を取り払うように開放感にあふれ、まさに美しい学都に近づいたと感じております。幸いにも、大学ブランドランキングにおいて中四国No1にも岡山大学が初めて選ばれました。私達の大学は、皆さんとともに社会の要請にこたえて、おおきな変化をなし遂げてきたと信じております。

毎年、式辞で私の信じる私のMottoというべき言葉を紹介させていただいています。

「この世で不変なものは変化のみ」これは、仏教の言葉で逆説的ですが、この世の中において、すべてのものは必ず時間とともに変化し、変化をしないものは存在しないという意味であります。まさに真実であり、誰もが学びをやめ、努力を怠ると必ず悪い方向へ変化し、絶え間ない学びと経験の蓄積が良い方向に変化をもたらします。変わりませんね、は決して誉め言葉ではなく、変わったという言葉こそが、最高の褒め言葉と私は常々思っております。

Learn from yesterday, live for today, hope for tomorrow.

昨日から学び、今日を生き、明日のために希望を持て。アルバート・アインシュタインの言葉です。

The greatest glory in living lies not in never falling, but in rising every time we fall. 生きるうえで最も偉大な栄光は、決して転ばないことにあるのではない。転ぶたびに起き上がり続けることにある。南アフリカ共和国の元大統領、ネルソン・マンデラの言葉です。

いつの瞬間も、「過去に何をしたかが大切ではなく、これから何をするか、人の輝きを定める」と信じています。年齢は関係ありません。過去の業績に頼るは見苦しく、自分は不可欠というような職種はどこにも存在しません。あなたの代わりは必ず存在します。

今日は、あなた方の人生が、新たに大きく変化が始まる日でもあります。大学で学ぶことは終わりましたが、明日から新しい学びが始まります。“何事であれ、いつであれ、どこであれ、すべてが学びの対象であり、学び機会であり、学びの場所となります、皆さんが正しいと思う事が、皆さんの選択であり、最大の努力することで、人生の成功をもたらし、輝きを増していきます。

Ask not, what your country can do for you, Ask, What you can do for your country!

「国があなた方に何が出来るかを問うのではなく、あなた方が、国に何が出来るかを問うてほしい。」

50年前、Kennedy 大統領が就任式で行った有名な演説の一節です。自分の置かれた環境は自分で作る」ことであり、他人のせいにしらない、すべてが自分の責任であり、自分で変化をなし遂げることであります。

この言葉が、私の少年時代にこの演説を聞いて、憧れをもって、尊敬さえ感じて私の生涯の MOTTO として生きてきました。私の最も好きな生き方です。

この言葉は、亡くなられたノートルダム清心大学学長の渡辺和子氏の「置かれた場所で咲きなさい。」という言葉に通ずるものと思います。

これから先、今日の日に戻ることはできません。明日が有るのみです。

昨日より今日、先月より今月、去年より今年をより良いものに変化させるように努力を惜しまず、そして、可能な限り、毎日を楽しめるものにする・・・、毎日の楽しさが起こる変化を大きくし、常に前向きな努力が良い選択を生み、良

い結果と成功を導くと信じております。ようは楽観的であれです。

岡山大学の美しいキャンパスは、将来において輝きを増した皆さんが、この日に思い起こしながら、再びこのキャンパスに戻ってくる日を待っています。皆さんに再びこの美しい岡山大学のキャンパスでお会いできるのを期待しております。

今日、私も最後の挨拶であります。皆さんに対して、この6年間の充実した時間を、私自身にも頂いたことに心から感謝をもうしあげるとともに、皆さんのこれからの未来に大きな期待をし、成功と幸せな人生を祈念して、今日の式辞とさせていただきます。

平成29年3月24日

国立大学法人岡山大学長

森 田 潔